

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102120
法人名	医療法人 たくま会
事業所名	グループホーム せと
所在地	松山市余戸南2丁目19番33号
自己評価作成日	2015年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年7月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各ユニットに看護職員が1名以上ずつ配置されているので、健康管理、異常の早期発見、緊急時にはすぐに対応できる。医師も連絡すれば、すぐにつけてくれる。  
運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、地域の方にも参加して頂き、意見交換をしたり、地域の行事の情報なども教えていただきながら地域との連携を図っている。せとでの行事にも参加していただいている。職員のスキルアップのために、職種や経験年数に応じた研修に参加して貰っている。  
ご家族様にも協力をお願いし、日々のケアや外出など行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人は医療機関であり、事業所のある敷地内にはデイサービスとケアセンターが隣接している。開設14年を迎え、事業所周辺地域とほのぼのとしたご近所づきあいを継続させながら、相互協力ができる関係構築に努めてきた。母体法人である医療機関と共に日々の健康管理で利用者の生き生きとした暮らしを支えている。職員は利用者が何を求めているのか正しく知るためのアセスメント力が高く、問題の分析や援助へとユニット毎に職員がチームとして連携している。理念を基に目標を設定し、年度末に自己評価を行うことで来年度期につなげる振り返りができている。事業所では利用者の重度化や職員の高齢化といった課題を持っているが、日々の運営の中で、互いの思いを意見し合える気軽な職員関係があり、今後はそれぞれの特性や専門性を活かした職員教育に力を入れたいと望んでおり、さらに期待ができる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームせと

(ユニット名) さくら

記入者(管理者)

氏名 忽那圭剛・尾崎里美・蔭谷きよみ

評価完了日

平成27年3月25日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p><b>(自己評価)</b> 事業所で誰にでも分かりやすい理念を作成し、各ユニットに掲示し、誰でも見ることができるようにしている。理念をケアプランの援助方針に取り入れ、共有し実践できるように努力している。また、会議等で理念の共有を深め、実践につながるよう努めている。</p> <p><b>(外部評価)</b> 開設時に代表者と職員で作成した『明るく/楽しく/穏やかに』という理念は、開設14年を経た現在も大切に受け継がれ、入職時や業務カンファレンスで共有している。毎年、理念に基づいた目標をユニット毎に掲げ、年度末には自己評価を実施し、来年度期への励みとしている。理念はケアプラン作成時にも方針として取り入れ、日々の支援へとつなげている。</p>	事業所では勤務歴の長い職員に恵まれているが、経験の中で会得した援助方法や考え方がともすれば我流になっていないかと振り返る場面もある。また重度の利用者も多く気持ちに余裕がなくなっている現状を打破したいと奮起している。改めて職員一同の意識を初心に戻し、立場や経験にとらわらず事業所で働く全職員が事業所の理念を理解し、援助方法や考え方を振り返り、事業所の目指すケアへとつなげてほしい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>自治会に加入し、地域行事や活動には積極的に参加している。(運動会、盆踊り、川掃除など)ホームの行事にも地域の方に声をかけて参加して頂いて交流を深めている。(夏祭り、蛍鑑賞会、避難訓練など)また、運営推進会議にも参加して頂き、定期的に交流している。</p> <p><b>(外部評価)</b> 事業所の運営には地域との良好な関係構築が不可欠であると位置付け、開設当初から地域の一員としての地道な交流が継続されている。差し入れを届けてくれる近所付き合いをはじめ、事業所行事や地域行事への参加、窓拭きや菜園作業のボランティア協力、近隣学校施設の行事や体験学習の受け入れ、地域河川清掃等互いに行き来することができている。利用者の高齢化等状況変化に伴い出向く頻度は減少しているが、事業所としてできることを継続することで安定した交流ができている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々にに向けて活かしている	<p><b>(自己評価)</b> 運営推進会議や避難訓練などに参加して頂き、認知症の理解や支援方法を知って頂けるように努めている。地域の様々な研修や会合にも参加している。家族の認知症の対応など、いつでも気軽に相談を持ちかけて頂くようお願いしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 取り組み状況、年間計画など、地域の方、市の職員、利用者、家族に参加して頂いて伝えている。要望、意見を聞き、サービスの向上に努めている。避難訓練を地域の方を交えて行うなどもしている。地域からも情報を提供していただき、意見交換や報告などを行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族等、市町村担当者、地域包括支援センター及び多数の地域住民の参加協力を得て2か月毎の開催ができています。現状報告等運営に関する報告、地域の情報交換等のほか、外部講師を招いた消費者支援講座や市社協や地域包括支援センターの役割についての説明、勉強会の開催等、身近な問題や疑問が組み込まれ、地域住民にとって参加したいと思う議題の工夫がある。運営に関して率直な意見交換ができており、有意義な取り組みとなっている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営、ケアサービスの不明な点などについて連絡を取り相談している。運営推進会議にも参加して頂き、取り組みなど伝え協力して頂けるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 市町村担当者や地域包括支援センターの運営推進会議への参加が得られており、意見交換ができる顔馴染みの関係となっている。日頃から必要に応じた相談や助言を得るほか、待機報告者等の定期的な連絡を行う中で気軽な協力関係が築けている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 日中は鍵をかけず、自由に入出りが出来るようにしている。身体拘束ゼロの手引きを各ユニットに置いて理解を深め、拘束しないケアに努めている。また、身体に危険が及ぶ場合でやむ得ない場合は、ご家族様の了承・同意を得て行ってその都度拘束しないケアができないか話し合うようにし見直しも行っている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束マニュアルを整備し、身体拘束をしない方針を持ち、年1回は正しい理解を深めるために勉強会を設けている。現在、食道に胃ろうを増設した利用者の安全面を考慮し、主治医からの指示を受けてミトンを使用しているケースがあるが、家族等に説明の上同意を得て実施しており、経過観察を行い、検討を重ねることで、抑圧感のない暮らしの支援へつながるよう対応している。利用者の言葉かけ等、日頃の慣れがしやすい場面にも職員同士が声を掛け合い、接遇勉強会を実施する等意識した教育ができています。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止についてのマニュアルをユニットに置いて、閲覧できるようにしている。高齢者虐待法についても定期学習会で、勉強し会議などでも話し合いをし、防止についても務めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 成年後見制度についてのファイルを作り、各ユニットに置いている。また、現在成年後見制度を利用している利用者様がおられるので、以前に比べ身近なものになっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ゆっくり時間をとり、十分な説明をし、理解して頂けるようにしている。不明な点などは聞いて頂き、納得できるよう説明している。改定などがあつた時は、家族会を開いたり、手紙を送って承認を頂くなど周知徹底を図っている。ターミナル、医療面などはその都度説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時、家族会などで意見、要望などを出して頂き、全スタッフが共有し話し合い、きちんと対応するよう努めている。  (外部評価) 利用者には日頃の生活の中で希望を聞き、家族には面会時や運営推進会議への参加時、介護計画作成時ほか状況に応じて電話連絡をとり、気軽に意見を伝えやすい関係を築けるよう努めている。また日頃の様子をお便りとして送り、現状を伝えている。苦情等の意見や、その時々口にされる思いは職員間で検討する機会を持ち、家族等に報告するとともに運営に早期反映するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 定期的に個別に面談をするなどして、意見や提案を聞く機会を作っており、話しやすい環境づくりをしている。また、代表者にも面談時の内容を伝え、できる限り反映できるように努めている。</p> <p>(外部評価) 勤務年数の長い職員に恵まれ、新しい職員も含め日頃から職員がそれぞれの思いを発しやすい環境にある。施設長や管理者は3ユニットそれぞれ職員の意見や要望等を聞き取りした上での職員配置を検討しており、毎年個別面談を取り入れ職員の思い等を聞く機会としている。また法人代表者である医師は頻りに事業所の各ユニットを訪問しており、利用者や職員の動向、運営状況を把握している。新人研修プログラムや組織内研修が年間計画され、職員トレーニングを実施して業務に活かしている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 幹部職員が職員の勤務状況、役職などを考慮して昇給などの案を作成し、経営者と相談しながら待遇面を決定している。職員のやりがいを考え、毎年少しずつでも昇給できるよう努めている。また、電動ベッドなどの福祉用具の取り入れをする等積極的な対応で、職員の身体を気遣い、職員が向上心を持って働けるような環境整備にも努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 職員の経験年数や職種に応じて研修を受けて貰っている。県内外で行われる研修会などには職員が参加しやすいよう、費用面についても支援している。研修後には報告書を書いて貰い、会議などで発表したり、学習会を開催するなどして共有している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホーム連絡協議会に加入し、他のグループホームとの交流を図っている。研修などで情報交換をし、サービス向上につながるよう努めている。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 訪問調査で生活状況の把握に努めている。事前に面談を行い、不安なこと、要望などを聞き、安心していただけるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族の今までの苦勞、不安なこと、要望など相手の身になって話を聞き、事業所でどのような対応ができるか、きちんと話し合いをして関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人・ご家族様の置かれている状況を把握し、その時に必要なサービスを提供できるように、他職種とも相談し、対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) コミュニケーションをとりながら、そばに寄り添い、信頼関係が築けるよう努めている。ご本人の出来ることはご本人にして頂き、ご本人の出来ないことは一緒に行ったり、代わりにしたりしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 外出、外泊、通院などご家族の協力を得ている。ご本人の日々の生活状態や体調等を面会時や月末の手紙で報告し、ご家族とご本人の情報を共有し、一緒に支えていく関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前の本人の馴染みの物・人・場所を大切にし、ご家族から話を聞き、それらが途切れないようにしている。いつでも面会に来て頂けるようにしている。また、電話や手紙なども自由にやりとりして頂いている。関係が途切れないよう家族の方へ協力の働きかけを行っている。 (外部評価) 入居開始前に詳細に生活歴等の情報を調べ、家族の協力を得てフェイスシートや支援マップシートを作成し、職員間で共有している。入居開始前からの馴染みの方の訪問を温かく見守っている。利用者がこれまで大切にしてきた関係を断ち切ることなく、介護計画へつなげ、継続できるよう支援に努めている。事業所での生活の中で利用者同士の関係が円滑に保てるよう配席等への配慮もあり、本人の気持ちを大切にした支援が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士が共に過ごす時間をつくり、職員も会話に参加し、楽しい時間が過ごせるように努めている。また、利用者同士の様子をみながら、必要であれば、職員が間に入って会話をつないだり、距離をおいてもらうなどの支援をしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院した時は、面会に行くなどして状況把握に努めている。必要に応じて相談に乗り、支援していくよう努めている。その後の経過状況を把握し、フォローできるよう支援している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) できる限り、思いや希望にそえるよう支援している。きちんと把握できるようご本人やご家族様に思いや意向を聞いている。また、できる限り希望に沿えるよう職員間で話し合い実施できるように努めている。  (外部評価) 日頃の生活の中で利用者個々の思いを把握できるよう個々の関わりを大切にすることができている。思いを伝えることが困難な状況にあっても、家族等からの情報はもとより、これまでの関わりの中で蓄積された記録を基に本人本位の検討が行われており、帰宅願望が強い利用者には家族の協力を得て外出したり、本人が納得できる支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前にフェースシートをご家族に記入してもらっている。また、その時々でご家族に聞いたり、ご本人に直接聞いたりして把握に努めている。また家で使っていた家具や馴染みのものを持って来てもらっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの過ごし方を観察し、見守りを行い、ご本人の心身状態、残存機能、現状の把握に努めている。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご家族やご本人の要望を聞いたり、ご本人の意思表示が難しい方は普段の様子から思いを汲み取り、他のスタッフとケアカンファレンスを開いて、一人一人の状態に合わせたケアプランを作成している。また、ご本人の状態に変化があれば、その都度話し合いを行い、新たにケアプランを作成している。  (外部評価) 担当制を敷かず全職員で介護計画作成やモニタリングに携わることで、多角的視点で見た気付きを大切にしている。利用者や家族等からの意向を踏まえ、個別の暮らしをサポートする具体策を話し合うことができおり、理念につながる介護計画を作成することができる。また、介護計画を要約し日々詳細に実施記録を残し、根拠あるモニタリングへとつなげることができる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録に水分、食事、排泄など身体状況、日々の暮らしの状況、気づいた点など記録に残すなどして情報を共有している。重要なことはラインを引くなどして介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 通院や送迎など必要な支援には柔軟に対応し、支援している。特に体調面での受診には柔軟に対応している。入居者が買い物に行きたいとの要望が出た場合などはできる限り対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の方に声をかけ、何かあったときは協力が得られるよう働きかけている。消防、警察とも意見交換の機会を設けている。地域包括支援センターの職員とも情報を共有し、協働している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 受診や通院はご本人、ご家族様の希望に応じて支援している。かかりつけ医との情報交換を密にし、共有できるよう支援している。</p> <p>(外部評価) ほとんどの利用者が母体医療機関をかかりつけ医としており、法人代表者である医師が日々頻繁に訪問することで利用者との馴染みの人間関係が構築できている。また、専門医等本人の希望する医療機関への受診も家族等の協力を得ながら、必要に応じ同行等支援ができています。各ユニットに1名以上の看護師がおり、日々の健康管理や緊急時の医療連携がスムーズであり、利用者や家族等の健康に関する不安の軽減に努めている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 各ユニットに1名以上看護職員がおり、日々の観察などで得た気づきの情報を伝え、利用者の健康管理や状態の変化に応じた支援ができるようにしている。医療機関との連携があり、緊急時の対応がすぐにとれる。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) サマリーに詳しく状況を記入し、情報交換をしている。医師、ナース、ご家族より状態を聞いたり、相談しながら、早期退院に向けて協働している。また、退院後のケア方法など話し合いの時間を設けたり、話し合いの時間が取れない場合は書面にてケアの方法などをやり取りしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 重度化や終末期のケアに関する指針を定めており、入居時に説明している。ご本人やご家族様の希望を聞き、どこまで対応できるか、職員も一緒に話し合い、Dr、ナース、介護福祉士、家族共々支援に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 重度化した場合における対応に係る指針を持ち、「最後まで、人間らしく、その人らしく、安らかに」という基本理念でターミナルケアマニュアルを整備している。入居開始前には事業所としてできること、できないことについて利用者や家族等に説明し、終末期のあり方について意向を伺うほか、状態に応じてその都度利用者や家族等から意向を伺い、説明や意向確認書を取付け、思いを共有している。実施後にはそれぞれの思い等について振り返りの機会を持ち、次の機会へとつなげている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当、急変時の対応について研修を行っている。マニュアルを作成し、各ユニットに置き、いつでも見れるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力も得ながら、定期的に避難訓練をしている。地域の方にも訓練に参加して頂き、協力が得られる体制を築いている。夜間の災害を想定し、緊急時の召集訓練も行っている。災害時におけるマニュアルを各ユニットにおいており、読み合わせなども行っている。	
			(外部評価) 年2回の防災訓練をはじめ、水害や地震等を想定した訓練や自主点検を意欲的に行っている。避難経路の掲示や実際に地域住民には事業所内部を理解してもらい、緊急連絡網や訓練計画等にも具体的な役割を担うなど協力を得ている。火元となる設備の改修等、環境整備に努めることで火害を事業所から出さないように心がけている。また、重度利用者や車椅子利用者も多いため、安全に避難する方法についてよく検討されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人に合わせて、穏やかな言葉かけや対応ができるよう、気を配っている。一人一人思っておられることが違うため、プライバシーを損なわないよう、対応にも気をつけている。	
			(外部評価) 利用者個々の人格や習慣を尊重し、敬意をはらった対応が心がけられている。慣れが出やすい言葉かけも日常の関係を大切にしながらも適切な対応ができるよう注意がされており、必要に応じた指導や接遇研修ができています。利用者付近での申送りの場合、イニシャルで呼ぶ配慮がされている。入浴や排泄等特に羞恥心への配慮が必要な場面にはパーテーションの活用がされ、人として不快だと感じたり、傷つけてしまうことがないよう対応することに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご本人に聞きながら、自己決定できるよう支援している。また、意思表示の難しい利用者は、表情やしぐさから読み取るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入浴・休息・排泄など、できるだけ一人ひとりのペースに合わせ、その人のペースや思いを大切にし、職員主導の生活にならないようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 出張美容師さんに来て貰い、本人の希望を聞きながら散髪をしている。化粧をされる方には、いつでも物品が提供できるように予備を準備している。その日に着る服なども、ご本人に聞いているが、認知症の重度化に伴い、その日に着たい服を選べる利用者様は、ごく一部になっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人一人の好みを考えて、必要時には、嫌いなものと取り除いて、代替えの食品などを用意している。また、入居者のできる力を活かし、職員と一緒に準備したり、片付けをしている。楽しく食事ができるよう心がけている。 (外部評価) 朝食と主食、汁物等は事業所で調理のほか、おやつ作りや敷地内で採れた季節の果物、地域住民から差し入れられた野菜を使っての1品等、食事が楽しみにつながる工夫をしている。主菜等は利用者の希望を取り入れながら、隣接する同法人デイサービスの共通献立を利用している。ユニット毎に利用者の状態に合わせた食事形態や食器、配席の工夫を行っている。また、朝の時間は利用者が個々に食事をとり、昼夜は一緒に食べるといったように集団生活の中にも個人のペースに配慮した対応が見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の状況を把握し、1日の水分、栄養バランス、習慣に応じた支援をしている。嚥下状態を把握し、それに応じた食事形態にしている。また、摂取量が少ない方には回数を増やしたり、カロリーのあるものや好みのものに変更し対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアが行えるよう支援している。一人ひとりの状態に応じた見守りや介助をしている。ポリデントを使用して清潔保持にも努めている。また必要時には、訪問歯科の衛生士さんに来ていただきケアしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンを把握し、介助が必要な方はトイレ誘導を行っている。必要者にはポータブルトイレを使用したりし、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。個々の状態に応じて、パッド、紙パンツ、布パンツなどで対応している。しかし重度化に伴い自立に向けた支援が困難になってきている。	
			(外部評価) 日常生活での食事や水分量等の健康管理と、医療面での管理を状態に応じて取り入れており、排泄パターンを掴み、利用者個々のリズムや状態に応じトイレでの自然排泄を大切にした支援を行っている。また、重度化によりおむつの常時利用も増えているので、利用者の状態に合わせた適切な用品の選択等が行えるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分をきちんと摂って貰ったり、腹部のマッサージを行ったりしている。必要に応じ、排便チェック表を作成し、パターンの把握に努めている。また、その方の状態に合わせて、下剤を服用してもらうなどしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの希望に合わせて入浴して貰っている。チェック表を作り、入浴の状況を把握している。一人ひとりの健康状態も考え、ニーズに合わせて入浴方法を検討しながら入浴していただいている。	
			(外部評価) ユニット毎に個別浴槽があり、週2～3回の入浴ができるようにしている。法人の他事業所の大浴場を利用し雰囲気の違いを楽しんだり、入浴剤を使用したりしながら気持ちよく過ごしてもらう工夫もしている。また、入浴が苦手な利用者には、無理強いすることなく誘い方等職員同士で連携を図りながら、利用者が入浴できやすいよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その日の体調や本人の希望に応じて、居室で休んで貰っている。日中は出来るだけ活動して貰い、夜間は安眠できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルを作成し、一人ひとりが服薬している薬について理解するよう努めている。薬の変更時は、職員に申し送りを行っている。薬は職員が管理し、服薬時は必ず職員が2人以上で確認してから服薬してもらっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ボランティアの方の演芸を観たり、ユニット内でレクレーションを行ったり、近隣への散歩や、庭へ出たりして気分転換を図っている。また、花見やイチゴ狩り、買い物、外食など長時間の外出は、計画を立てて体調をみながら外出支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ユニットでの外出や季節毎の外出は計画を立てて行っている。車椅子の利用者が多い為、一人ひとりの希望を聞いての対応が難しくなっている。ご家族の協力も得ながら、近隣の散歩や外出など季節を感じる事ができるよう支援している。  (外部評価) 事業所の敷地は広く、休憩できる庵や池を設け、果樹や季節の花々が訪れる人を楽しませてくれており、利用者や地域住民の交流の場ともなっている。年間行事計画を作成し、季節感が味わえるような外出支援も検討されている。また利用者の希望や状態に応じ、買い物や散歩等が日常的に行えるよう支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望や能力に応じて、所持できる利用者には少額所持して頂き、買い物など自分で使えるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人の希望があるときは、電話も手紙もいつでもやり取りできるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) トイレ、浴室などを清潔に保ち、臭いにも気をつけ、不快のないようにしている。料理の臭いや音などで生活感のある環境を作り、季節の花などを飾るなどして居心地良く過ごせるよう支援している。体温調節の困難な方には、冷暖房、除湿、換気、掛け物の調整等を行っている。	
			(外部評価) 開設14年を迎えており、老朽化した設備にはきちんとメンテナンスが行われ、利用者が安心して生活できるよう努めている。ユニット毎にそれぞれ家具等の配置は違っており、利用者の好みに応じた配置がされている。また、温湿度や明かり等への配慮、死角となる部分にはミラーを活用するなどの工夫がみられ、利用者は安心して過ごすことができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ホールにソファを置いており、思い思いに過ごせるよう工夫している。テーブル等の配置も工夫している。ホール、居室を思い思いに使って過ごされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご本人の使い慣れた食器や家具などを持ってきていただき、壁には、ご本人の好みの絵や馴染みの人との写真やご本人の写真を貼ったり工夫し、居心地良く過ごせるよう配慮している。	
			(外部評価) 床にカーペットを敷き、和式布団スタイルで過ごす利用者もあり、これまでの生活習慣が継続できるよう支援されている。また、それぞれに思い思いの馴染みのものを持ち込んでもらい、居心地良く暮らせる工夫もできている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリーで廊下やホールに手すりがついており、できるだけ自立した生活が送れるような環境づくりをしている。トイレなど共有部分には混乱しないよう紙に書いて貼っている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102120
法人名	医療法人たくま会
事業所名	グループホームせと
所在地	松山市余戸南2丁目19番33号
自己評価作成日	平成27年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年7月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各ユニットに看護職員が1名以上配置されているので、健康管理、異常の早期発見、緊急時にはすぐに対応でき、医師もすぐにつけてくれる。  
入居者の状況の変化に迅速に対応できるように、サービス計画、実践のモニタリングに力を入れ、担当者が変わりながら、客観的評価を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人は医療機関であり、事業所のある敷地内にはデイサービスとケアセンターが隣接している。開設14年を迎え、事業所周辺地域とほのぼのとしたご近所づきあいを継続させながら、相互協力ができる関係構築に努めてきた。母体法人である医療機関と共に日々の健康管理で利用者の生き生きとした暮らしを支えている。職員は利用者が何を求めているのか正しく知るためのアセスメント力が高く、問題の分析や援助へとユニット毎に職員がチームとして連携している。理念を基に目標を設定し、年度末に自己評価を行うことで来年度期につなげる振り返りができている。事業所では利用者の重度化や職員の高齢化といった課題を持っているが、日々の運営の中で、互いの思いを意見し合える気軽な職員関係があり、今後はそれぞれの特性や専門性を活かした職員教育に力を入れたいと望んでおり、さらに期待ができる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				



## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!  
  
ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームせと

(ユニット名) たんぽぽ

記入者(管理者)

氏名 黒田ひとみ・尾崎里美

評価完了日

平成27年3月30日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所の理念を明示し、共有している。明るく、楽しく、穏やかにを理念とし、入居者の地域参加、地域住民との交流を大切にし、入居者が、その人らしく暮らせるよう支援している。入居者の重度化が進む中、職員が積極的に地域に参加することで、グループホームのよき理解者になっていただけるように努めている。</p> <p>(外部評価) 開設時に代表者と職員で作成した『明るく/楽しく/穏やかに』という理念は、開設14年を経た現在も大切に受け継がれ、入職時や業務カンファレンスで共有している。毎年、理念に基づいた目標をユニット毎に掲げ、年度末には自己評価を実施し、来年度期への励みとしている。理念はケアプラン作成時にも方針として取り入れ、日々の支援へとつなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会に加入し、地域行事や活動には積極的に参加している。(運動会、盆踊り、川掃除など) ホームの行事にも地域の方に声をかけて参加していただき交流を深めている。開かれた事業所を目指している。</p> <p>(外部評価) 事業所の運営には地域との良好な関係構築が不可欠であると位置付け、開設当初から地域の一員としての地道な交流が継続されている。差し入れを届けてくれる近所付き合いをはじめ、事業所行事や地域行事への参加、窓拭きや菜園作業のボランティア協力、近隣学校施設の行事や体験学習の受け入れ、地域河川清掃等互いに行き来することができている。利用者の高齢化等状況変化に伴い出向く頻度は減少しているが、事業所としてできることを継続することで安定した交流ができている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加していただき、認知症の理解や支援方法を知っていただけるように努めている。地域の様々な研修や会合にも参加している。家族の認知症の対応など、いつでも気軽に相談を持ちかけたいとお願いしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 日々の取り組み状況、年間計画などを、地域の方、市の職員、利用者、御家族に参加して頂き伝えたり、要望や意見を聞きサービスの向上に努めている。地域からも情報を提供していただき、意見交換や報告などを行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族等、市町村担当者、地域包括支援センター及び多数の地域住民の参加協力を得て2か月毎の開催ができています。現状報告等運営に関する報告、地域の情報交換等のほか、外部講師を招いた消費者支援講座や市社協や地域包括支援センターの役割についての説明、勉強会の開催等、身近な問題や疑問が組み込まれ、地域住民にとって参加したいと思う議題の工夫がある。運営に関して率直な意見交換ができており、有意義な取組みとなっている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議にも参加していただき、取り組みを積極的に伝え、協力していただけるよう努めている。運営、ケアサービスの不明な点などがあれば、連絡を取り相談している。</p> <p>(外部評価) 市町村担当者や地域包括支援センターの運営推進会議への参加が得られており、意見交換ができる顔馴染みの関係となっている。日頃から必要に応じた相談や助言を得るほか、待機報告者等の定期的な連絡を行う中で気軽な協力関係が築けている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 「身体拘束ゼロの手引き」を各ユニットに置いて理解を深め拘束しないケアに努めている。また、四点柵などが必要な場合は、その理由を明確にし、主治医の意見を伺い、状況を把握しながら、毎月見直しし、サービス計画にも含めている。</p> <p>(外部評価) 身体拘束マニュアルを整備し、身体拘束をしない方針を持ち、年1回は正しい理解を深めるために勉強会を設けている。現在、食道に胃ろうを増設した利用者の安全面を考慮し、主治医からの指示を受けてミトンを使用しているケースがあるが、家族等に説明の上同意を得て実施しており、経過観察を行い、検討を重ねることで、抑圧感のない暮らしの支援へつながるよう対応している。利用者の言葉かけ等、日頃の慣れがしやすい場面にも職員同士が声を掛け合い、接遇勉強会を実施する等意識した教育ができています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) マニュアルを作成し、高齢者虐待法についても定期学習会で勉強している。虐待の記事などがあれば回覧で回し、見逃すことがないように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 成年後見制度についてのファイルを各ユニットに置き、いつでも閲覧できるようにしている。また、家族から相談を受けた時や、それ以外でも必要に応じて活用を支援している。また、数名は成年後見制度を利用している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約締結時には、十分時間をかけ説明し、理解していただけるようにしている。不明な点などは聞いていただき、納得できるよう説明している。改定などがあつたときは、家族会を開いたり、手紙を送って承認をいただくなど周知徹底を図っている。ターミナル、医療面などは必要時、説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ホームの行事、家族会、ご家族アンケート、評価機関、市町村が集計したアンケート結果等を参考にしたり、ご家族の来所時に意見を聴き、迅速に対応することを目指して、カンファレンスを開催するようにしている。  (外部評価) 利用者には日頃の生活の中で希望を聞き、家族には面会時や運営推進会議への参加時、介護計画作成時ほか状況に応じて電話連絡をとり、気軽に意見を伝えやすい関係を築けるよう努めている。また日頃の様子をお便りとして送り、現状を伝えている。苦情等の意見や、その時々口にされる思いは職員間で検討する機会を持ち、家族等に報告するとともに運営に早期反映するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 個別面談をするなどして、意見や提案を聞く機会を作っている。代表者にもこの内容を伝え、できる限り反映できるように努めている。</p> <p>(外部評価) 勤務年数の長い職員に恵まれ、新しい職員も含め日頃から職員がそれぞれの思いを発しやすい環境にある。施設長や管理者は3ユニットそれぞれ職員の意見や要望等を聞き取りした上での職員配置を検討しており、毎年個別面談を取り入れ職員の思い等を聞く機会としている。また法人代表者である医師は頻りに事業所の各ユニットを訪問しており、利用者や職員の動向、運営状況を把握している。新人研修プログラムや組織内研修が年間計画され、職員トレーニングを実施して業務に活かしている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員の日頃の努力、勤務状況を観察し、職場環境が良くなるように努めている。年度末には業務自己評価、目標管理表を通して評価し、やる気が維持できるように面談等で意見を聴くようにしている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 職員一人一人必要と思われる研修に参加できるよう調整したり、ホーム内での定期学習会も開催している。年々同じ課題でも、内容を変えてマンネリ化しないよう工夫している。読む合わせ学習ではなく、事例検討などを中心に行うようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホーム連絡協議会に加入し、他のグループホームとの交流を図っている。所外研修や、包括単位の連絡会、他のグループホームの行事に参加することで情報交換をし、サービス向上につながるよう努めている。</p>	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 事前に面談を行い、不安なこと、要望などを聞き、安心して利用して頂けるよう努めている。コミュニケーションを大切にし、ご本人の気持ちを受け止め、関係が築けるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族に不安なこと、要望などを聞き、事業所でどのような対応ができるか、その都度話し合いをし、家族との信頼関係が築けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の状況を把握し、その時必要な支援を見極め、多職種と相談し、その方にあったサービスが提供できるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者の思いを尊重し、コミュニケーションをとりながら、共に生活をする者同士として良い関係を築けるよう努力している。 洗濯物をたたんだり、片づけを一緒に行うなどして支えあう関係づくりをしている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日々の出来事、体調変化などの情報を共有し、本人と一緒に支えていく関係を築いている。また、日頃から気軽に声をかけられ、話しやすい環境を整え、感情が表出しやすいように配慮している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前の本人の馴染みの物、人、場所を大切にし、御家族から話を聞き、それらが途切れないようにしている。いつでも面会に来ていただけるようにしており、関係が途切れないよう家族の方へ協力の働きかけを行っている。	
			(外部評価) 入居開始前に詳細に生活歴等の情報を調べ、家族の協力を得てフェイスシートや支援マップシートを作成し、職員間で共有している。入居開始前からの馴染みの方の訪問を温かく見守っている。利用者がこれまで大切にしてきた関係を断ち切ることなく、介護計画へつなげ、継続できるよう支援に努めている。事業所での生活の中で利用者同士の関係が円滑に保てるよう配席等への配慮もあり、本人の気持ちを大切にした支援が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 互いに助け合う場面があり、入居者同士が共に過ごす時間を大切にしている。必要時には職員が間に入り、良い関係が保てるよう配慮している。また、孤立しないよう席を配慮したりしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 施設入所や、入院した場合でも連絡したり、面会に行き、その後の状況の把握に努めている。必要に応じて相談をお受けしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常的に本人の話を聞いたり、家族に話を聞いたりして意向の把握に努め、一人一人の生活パターンや嗜好に応じた支援を心がけている。	
			(外部評価) 日頃の生活の中で利用者個々の思いを把握できるよう個々の関わりを大切にすることができている。思いを伝えることが困難な状況にあっても、家族等からの情報はもとより、これまでの関わりの中で蓄積された記録を基に本人本位の検討が行われており、帰宅願望が強い利用者には家族の協力を得て外出したり、本人が納得できる支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時にフェイスシートを家族に記入していただき、バックグラウンドの把握に努めている。また、入居当初のサービス計画書を1ヶ月内の期間として、状態、状況をみて、柔軟に計画変更ができるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の過ごし方を理解し、観察、見守りを常に行い、心身状態、残存機能、現状の把握に努めている。モニタリング、アセスメントをし、少しの変化も見逃さないように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の希望を聞いたり、職員の気づきや意見を取り入れてカンファレンスをし、一人ひとりの現状に合わせた介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、状態に大きな変化があれば、その都度カンファレンスをし、新たな計画を作成している。  (外部評価) 担当制を敷かず全職員で介護計画作成やモニタリングに携わることで、多角的視点で見た気づきを大切にしている。利用者や家族等からの意向を踏まえ、個別の暮らしをサポートする具体策を話し合うことができおり、理念につながる介護計画を作成することができている。また、介護計画を要約し日々詳細に実施記録を残し、根拠あるモニタリングへとつなげることができている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に記録し、重要なことなどには蛍光ペンでラインを引くなどして工夫している。ケア内容の変更は計画書に赤字で追加し工夫している。モニタリング、アセスメントを行う計画作成担当者が固定することのないように、計画作成担当者が交互に実施し、客観性も重視している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 通院や送迎など必要な支援には柔軟に対応、支援している。特に体調面での受診には柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の方に声をかけ、何かあったときは協力が得られるよう働きかけている。消防、警察とも意見交換の機会を設けている。地域包括支援センターの職員とも情報を共有し、協働している。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) できる限り、入居者、ご家族の希望するかかりつけ医が継続できるようにしている。看護職員が中心となり、かかりつけ医との情報交換を密にし、関係を築きながら必要な医療が受けられるよう支援している。	
			(外部評価) ほとんどの利用者が母体医療機関をかかりつけ医としており、法人代表者である医師が日々頻繁に訪問することで利用者との馴染みの人間関係が構築できている。また、専門医等本人の希望する医療機関への受診も家族等の協力を得ながら、必要に応じ同行等支援ができています。各ユニットに1名以上の看護師がおり、日々の健康管理や緊急時の医療連携がスムーズであり、利用者や家族等の健康に関する不安の軽減に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 各ユニットに1名以上看護職員がおり、利用者の健康管理や状態の変化に応じた支援ができるようにしている。医療機関との連携があり、緊急時の対応がすぐにとれるようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時にはできる限り職員が同行し、介護サマリーに詳しく状況を記入し、情報提供している。医師、ナース、ご家族から状態を聞いたり、相談しながら、早期退院に向けて協働している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や終末期のケアに関する指針を定めており、入居時に説明している。本人や家族の希望を聞き、どこまで対応できるか、職員も一緒に話し合い、Dr、ナース、介護福祉士、家族共々支援に取り組んでいる。	
			(外部評価) 重度化した場合における対応に係る指針を持ち、「最後まで、人間らしく、その人らしく、安らかに」という基本理念でターミナルケアマニュアルを整備している。入居開始前には事業所としてできること、できないことについて利用者や家族等に説明し、終末期のあり方について意向を伺うほか、状態に応じてその都度利用者や家族等から意向を伺い、説明や意向確認書を取付け、思いを共有している。実施後にはそれぞれの思い等について振り返りの機会を持ち、次の機会へとつなげている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し、各ユニットに置き、いつでも見れるようにしている。救命講習に参加したり、応急手当、急変時の対応について研修を行い、実践力が身につくよう努力している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力も得ながら、定期的に避難訓練をしている。地域の方にも訓練に参加していただき、協力が得られる体制を築いている。ホームの緊急連絡網には地域の防災士の方も入っており、ホームの情報を通報できるようにしている。  (外部評価) 年2回の防災訓練をはじめ、水害や地震等を想定した訓練や自主点検を意欲的に行っている。避難経路の掲示や実際に地域住民には事業所内部を理解してもらい、緊急連絡網や訓練計画等にも具体的な役割を担うなど協力を得ている。火元となる設備の改修等、環境整備に努めることで火害を事業所から出さないように心がけている。また、重度利用者や車椅子利用者も多いため、安全に避難する方法についてよく検討されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人を尊重し、穏やかな言葉かけや対応ができるよう心がけている。一人一人思っておられることが違うため、プライバシーを損なわないよう、対応にも気をつけている。声かけの仕方を職員同士が注意し合える関係でいる。  (外部評価) 利用者個々の人格や習慣を尊重し、敬意をはらった対応が心がけられている。慣れが出やすい言葉かけも日常の関係を大切にしながらも適切な対応ができるよう注意がされており、必要に応じた指導や接遇研修ができています。利用者付近での申送りの場合、インシヤルで呼ぶ配慮がされている。入浴や排泄等特に羞恥心への配慮が必要な場面にはパーテーションの活用がされ、人として不快だと感じたり、傷つけてしまうことがないよう対応することに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人に聞きながら、自己決定できるよう支援している。意思表示の難しい利用者は、表情やしぐさから読み取ったり、ご家族に確認しながら決定を促している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入居者のその日の体調や意向を確認しながら、生活リズムを大切に支援をしている。できるだけ一人ひとりのペースに合わせ、職員主導の生活にならないように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 重度化に伴い、その日に着たい服を選べる利用者様はほとんどおられない。出張美容師さんに来て貰い、本人の希望を聞きながら散髪をしている。また、御家族の希望を聞きながら、散髪している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人一人の好みを聞き、嫌いなものは取り除いたり、他の物を用意したりしている。また、職員と一緒に楽しく食事できるようにしている。  (外部評価) 朝食と主食、汁物等は事業所で調理のほか、おやつ作りや敷地内で採れた季節の果物、地域住民から差し入れられた野菜を使っての1品等、食事が楽しみにつながる工夫をしている。主菜等は利用者の希望を取り入れながら、隣接する同法人デイサービスの共通献立を利用している。ユニット毎に利用者の状態に合わせた食事形態や食器、配席の工夫を行っている。また、朝の時間は利用者が個々に食事をとり、昼夜は一緒に食べるといったように集団生活の中にも個人のペースに配慮した対応が見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の状態を把握し、一日の水分、栄養バランス、習慣に応じた支援をしている。嚥下状態を把握し、それに応じた食事形態にしている。また、補食の工夫もあわせてしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、一人一人の状態に応じた口腔ケア介助をしている。ポリドントを使用して清潔保持にも努めている。必要な方は、歯科医等に相談、指示を受けながら口腔ケアを行っている。寝たきりの方の口腔ケアについては、誤嚥性肺炎予防の意識が高く、夜間でも必要な方には実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンをアセスメントし、個々に応じた声かけ、誘導をしている。排泄パターンがつかみきれない場合でも、清潔で気持ちよく過ごしていただけるよう支援している。	
			(外部評価) 日常生活での食事や水分量等の健康管理と、医療面での管理を状態に応じて取り入れており、排泄パターンを掴み、利用者個々のリズムや状態に応じトイレでの自然排泄を大切にした支援を行っている。また、重度化によりおむつの常時利用も増えているので、利用者の状態に合わせた適切な用品の選択等が行えるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分をきちんと摂って貰ったり、マッサージを行ったりしている。必要に応じ、排便チェック表を作成し、パターンの把握に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一人一人の希望や状態に応じて入浴支援をしている。安全面の配慮が特に必要な方には、二人体制で支援している為、時間が制約されることもある。	
			(外部評価) ユニット毎に個別浴槽があり、週2～3回の入浴ができるようにしている。法人の他事業所の大浴場を利用し雰囲気の違いを楽しんだり、入浴剤を使用したりしながら気持ちよく過ごしてもらう工夫もしている。また、入浴が苦手な利用者には、無理強いすることなく誘い方等職員同士で連携を図りながら、利用者が入浴できやすいよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その日の体調や本人の希望に応じて昼寝をしてもらっている。日中はできるだけ活動してもらい、夜間は安眠できるよう支援している。その方の生活習慣に応じてタイミングよく安眠できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルを作成し、一人一人が服薬している薬について理解するよう努めている。薬の変更時は、職員に申し送りをしている。薬は職員が管理し、一人一人の内服を確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 踊りや演芸、カラオケなど、イベントにも参加してもらうよう支援している。庭へ出たりして気分転換を図ったり、また、体調をみながら、散歩や花見などの外出支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 全体的な外出や季節ごとの外出は計画を立てて行っている。車椅子の利用者が多い為、一人一人の希望を聞いての対応が難しくなっている。天気の良い日に庭へ出るなど、短時間でも外気に触れる時間を作るようにしている。 (外部評価) 事業所の敷地は広く、休憩できる庵や池を設け、果樹や季節の花々が訪れる人を楽しませてくれており、利用者や地域住民の交流の場ともなっている。年間行事計画を作成し、季節感が味わえるような外出支援も検討されている。また利用者の希望や状態に応じ、買い物や散歩等が日常的に行えるよう支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 所持できる利用者には少額所持していただいている。困難な方は金庫に預かり、必要時に出している。出納は小遣い帳に記入し、ご家族に確認していただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望がある時は、電話や手紙がいつでもやり取りできるよう支援している。ホームに住所移動されておられる方もあり、個人宛に手紙が送られてくることもある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食 堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不 快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、 広さ、温度など）がないように配慮し、生活 感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせ るような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>トイレ、浴室などを清潔に保ち、臭いにも気をつけ、不快のないようにしている。料理の匂いや音などで生活感のある環境を作り、花などを飾るなどして居心地良く過ごせるよう支援している。体温調節の困難な方には、冷暖房、除湿、換気、掛け物の調整等を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>開設14年を迎えており、老朽化した設備にはきちんとメンテナンスが行われ、利用者が安心して生活できるよう努めている。ユニット毎にそれぞれ家具等の配置は違っており、利用者の好みに応じた配置がされている。また、温湿度や明かり等への配慮、死角となる部分にはミラーを活用するなどの工夫がみられ、利用者は安心して過ごすことができている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>居室は個室で自分の空間として過ごしていただける。ホールにソファを置いており、思い思いに過ごせるよう工夫している。テーブル等の配置も工夫している。思い思いの場所で過ごされ、会話を楽しんだり、TVを見たりされている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>本人の使い慣れたものを持ってきていただき、居心地良く過ごせるよう配慮している。壁に写真や絵を貼ったりして工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>床にカーペットを敷き、和式布団スタイルで過ごす利用者もおり、これまでの生活習慣が継続できるよう支援されている。また、それぞれに思い思いの馴染みのものを持ち込んでもらい、居心地良く暮らせる工夫もできている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>バリアフリーで手すりがついており、できるだけ自立した生活が送れるような環境づくりをしている。トイレなど共有部分には、混乱しないよう紙に大きく書いて貼っている。衛生上必要な洗剤類でも危険な場合もあるので、置く場所も工夫している。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102120
法人名	医療法人たくま会
事業所名	グループホームせと
所在地	松山市余戸南2丁目19番33号
自己評価作成日	平成27年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年7月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各ユニットに看護職員が1名以上ずつ配置されているので、健康管理、異常の早期発見、緊急時にはすぐに対応できる。医師も連絡すれば、すぐに駆けつけてくれる。運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、地域の方にも参加して頂き、意見交換をしたり、地域の行事の情報なども教えていただきながら地域との連携を図っている。せとでの行事にも参加していただいている。職員のスキルアップのために、職種や経験年数に応じた研修に参加して貰っている。ご家族様にも協力をお願いし、日々のケアや外出など行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人は医療機関であり、事業所のある敷地内にはデイサービスとケアセンターが隣接している。開設14年を迎え、事業所周辺地域とほのぼのとしたご近所づきあいを継続させながら、相互協力ができる関係構築に努めてきた。母体法人である医療機関と共に日々の健康管理で利用者の生き活きとした暮らしを支えている。職員は利用者が何を求めているのか正しく知るためのアセスメント力が高く、問題の分析や援助へとユニット毎に職員がチームとして連携している。理念を基に目標を設定し、年度末に自己評価を行うことで来年度期につなげる振り返りができている。事業所では利用者の重度化や職員の高齢化といった課題を持っているが、日々の運営の中で、互いの思いを意見し合える気軽な職員関係があり、今後はそれぞれの特長や専門性を活かした職員教育に力を入れたいと望んでおり、さらに期待ができる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、地域包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホームせと

(ユニット名)

すみれ

記入者(管理者)

氏名

蔭谷きよみ・尾崎里美

評価完了日

平成27年3月20日



(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所の理念を明示し(明るく・楽しく・穏やかに)、共有している。また職員皆が、理念を理解し日々、実践できるよう協力し合い、努力している。</p> <p>(外部評価) 開設時に代表者と職員で作成した『明るく/楽しく/穏やかに』という理念は、開設14年を経た現在も大切に受け継がれ、入職時や業務カンファレンスで共有している。毎年、理念に基づいた目標をユニット毎に掲げ、年度末には自己評価を実施し、来年度期への励みとしている。理念はケアプラン作成時にも方針として取り入れ、日々の支援へとつなげている。</p>	事業所では勤務歴の長い職員に恵まれているが、経験の中で会得した援助方法や考え方がともすれば我流になっていないかと振り返る場面もある。また重度の利用者も多く気持ちに余裕がなくなっている現状を打破したいと奮起している。改めて職員一同の意識を初心に戻し、立場や経験にとらわらず事業所で働く全職員が事業所の理念を理解し、援助方法や考え方を振り返り、事業所の目指すケアへとつなげてほしい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会に加入し、地域行事や活動には積極的に参加している。 (運動会、地域研修会、芋炊き会、盆踊り、川掃除など) ホームの行事にも地域の方に声をかけて参加していただき交流を深めている。(納涼会・運営推進委員会など)</p> <p>(外部評価) 事業所の運営には地域との良好な関係構築が不可欠であると位置付け、開設当初から地域の一員としての地道な交流が継続されている。差し入れを届けてくれる近所付き合いをはじめ、事業所行事や地域行事への参加、窓拭きや菜園作業のボランティア協力、近隣学校施設の行事や体験学習の受け入れ、地域河川清掃等互いに行き来することができている。利用者の高齢化等状況変化に伴い出向く頻度は減少しているが、事業所としてできることを継続することで安定した交流ができている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加していただき、認知症の理解や支援方法を知っていただけるように努めている。地域の様々な研修や会合にも参加している。また、地域の方と勉強会も行った。家族の認知症の対応など、いつでも気軽に相談を持ちかけていただくようお願いしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 取り組み状況、年間計画、利用者様のレクなど、地域の方、市の職員、利用者、家族に参加して頂き伝えたり、要望や意見を聞き、サービスの向上に努めている。地域からも情報を提供していただき、意見交換や報告などを行っている。勉強会を開き、地域の方も一緒に参加して頂いている。	
			(外部評価) 利用者や家族等、市町村担当者、地域包括支援センター及び多数の地域住民の参加協力を得て2か月毎の開催ができています。現状報告等運営に関する報告、地域の情報交換等のほか、外部講師を招いた消費者支援講座や市社協や地域包括支援センターの役割についての説明、勉強会の開催等、身近な問題や疑問が組み込まれ、地域住民にとって参加したいと思う議題の工夫がある。運営に関して率直な意見交換ができており、有意義な取組みとなっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営、ケアサービスの不明な点などについて連絡を取り相談している。運営推進会議にも参加していただき、取り組みなど伝えたり、ホーム内の様子を伝え理解していただき協力を得ている。	
			(外部評価) 市町村担当者や地域包括支援センターの運営推進会議への参加が得られており、意見交換ができる顔馴染みの関係となっている。日頃から必要に応じた相談や助言を得るほか、待機報告者等の定期的な連絡を行う中で気軽な協力関係が築けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束ゼロの手引きを各ユニットに置いて理解を深め拘束しないケアに努めている。また、そのつど、その行為が拘束につながるかどうか話し合いをしたり、勉強会を開き、正しい考えを身に付けるようにしている。	
			(外部評価) 身体拘束マニュアルを整備し、身体拘束をしない方針を持ち、年1回は正しい理解を深めるために勉強会を設けている。現在、食道に胃ろうを増設した利用者の安全面を考慮し、主治医からの指示を受けてミトンを使用しているケースがあるが、家族等に説明の上同意を得て実施しており、経過観察を行い、検討を重ねることで、抑圧感のない暮らしの支援へつながるように対応している。利用者の言葉かけ等、日頃の慣れがしやすい場面にも職員同士が声を掛け合い、接遇勉強会を実施する等意識した教育ができています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待の記事を回覧で回し、見過ごすことがないように努めている。業務カンファレンスを開いたり、高齢者虐待法についても定期学習会で、勉強している。疑問に思うことがあればその都度ユニットで話し合いをしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 成年後見制度についてのファイルを作り、各ユニットに置いたり、研修に行って勉強し理解するよう努めている。成年後見制度を利用している利用者もおり、支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ゆっくり時間をとり、十分な説明をし、理解していただけるようにしている。不明な点などは聞いていただき、納得できるよう説明している。改定などがあつたときは、家族会を開いたり、手紙を送って承認をいただくなど周知徹底を図っている。ターミナル、医療面などはその都度説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時、家族会などで意見、要望などを出していただいたり、運営推進会議でアンケートをとって意見を聞いたりして、全スタッフが共有し話し合い、きちんと対応するよう努めている。  (外部評価) 利用者には日頃の生活の中で希望を聞き、家族には面会時や運営推進会議への参加時、介護計画作成時ほか状況に応じて電話連絡をとり、気軽に意見を伝えやすい関係を築けるよう努めている。また日頃の様子をお便りとして送り、現状を伝えている。苦情等の意見や、その時々口にされる思いは職員間で検討する機会を持ち、家族等に報告するとともに運営に早期反映するよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 個別面談をするなどして、意見や提案を聞く機会を作っている。代表者にもこの内容を伝え、できる限り反映できるように努めている。  (外部評価) 勤務年数の長い職員に恵まれ、新しい職員も含め日頃から職員がそれぞれの思いを発しやすい環境にある。施設長や管理者は3ユニットそれぞれ職員の意見や要望等を聞き取りした上での職員配置を検討しており、毎年個別面談を取り入れ職員の思い等を聞く機会としている。また法人代表者である医師は頻りに事業所の各ユニットを訪問しており、利用者や職員の動向、運営状況を把握している。新人研修プログラムや組織内研修が年間計画され、職員トレーニングを実施して業務に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 幹部職員が職員の勤務状況、役職などを考慮して昇給などの案を作成し、経営者と相談しながら待遇面を決定している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員のレベルに応じて研修を受けて貰っている。県内外で行われる研修会などには職員が参加しやすいよう、費用面についても支援しているが、職員不足が続いた為研修に行く機会が少なくなっている。その為、ユニットで出来る勉強会を開催した。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会に加入し、他のグループホームとの交流を図っている。研修などで情報交換をし、サービス向上につながるよう努めている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 訪問調査で生活状況の把握に努めている。事前に面談を行い、本人や家族様に不安なこと、要望などを聞き、安心して利用して頂けるよう努めている。また、職員と事前に話すことでも安心感を得られる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の苦労、不安なこと、要望など相手の身になって話を聞き、事業所でどのような対応ができるか、その都度話し合いをし、家族との信頼関係が築けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の状況を把握し、その時必要な支援を見極め、多職種と相談し、サービスを利用していただけるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) コミュニケーションをとりながら、共に生活をする者同士として良い関係を築けるよう努力している。 洗濯物をたたんだり、お皿をふいたり、片づけを一緒に行うなどして支えあう関係づくりをしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 外出、外泊、通院など御家族の協力を得ている。日々の出来事、体調変化などの情報を共有し、本人と一緒に支えていく関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前の本人の馴染みの物、人、場所を大切に、御家族から話を聞き、それらが途切れないようにしている。いつでも面会に来ていただけるようにしているうえ、電話や手紙なども自由にやりとりしていただいている。関係が途切れないよう家族の方へ協力の働きかけを行っている。 (外部評価) 入居開始前に詳細に生活歴等の情報を調べ、家族の協力を得てフェイスシートや支援マップシートを作成し、職員間で共有している。入居開始前からの馴染みの方の訪問を温かく見守っている。利用者がこれまで大切にしてきた関係を断ち切ることなく、介護計画へつなげ、継続できるよう支援に努めている。事業所での生活の中で利用者同士の関係が円滑に保てるよう配席等への配慮もあり、本人の気持ちを大切に支援が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士が、共に過ごす時間を大切にし、必要時には職員が間に入り、入居者同士が支えあえるような関係が築けるよう支援している。また、孤立しないよう席を配慮したり入居者同士がよい関係が築けるように、支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院したときは、面会に行き状況把握に努めている。看護師に話を聞いたり、ご家族と一緒に説明を聞き、必要に応じて相談に乗り、支援していくようつとめている。その後の経過状況を把握し、フォローできるよう支援している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常的に本人の話を聞いたり家族に話を聞いたりして、できる限り、思いや希望にそえるよう支援している。きちんと把握するよう本人や家族に思いや意向を聞いている。また、それを職員間で共有しカンファなどにかかしている。 (外部評価) 日頃の生活の中で利用者個々の思いを把握できるよう個々の関わりを大切にすることができている。思いを伝えることが困難な状況にあっても、家族等からの情報はもとより、これまでの関わりの中で蓄積された記録を基に本人本位の検討が行われており、帰宅願望が強い利用者には家族の協力を得て外出したり、本人が納得できる支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) フェイスシートを家族に記入していただき、バックグラウンドの把握に努めている。馴染みのものを持ってきていただくようにしている。在宅時の家を訪問し、生活環境を確認したりしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの過ごし方を理解し、観察、見守りを常に行い、心身状態、残存機能、現状の把握に努めている。少しの変化も見逃さないように努めている。小さな変化でもそれに対応できるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の希望を聞いたり、職員の気づきや意見を取り入れて話し合いをして、一人ひとりの現状に合わせた介護計画を作成している。この場合できるだけ家族、本人に参加していただいている。状態に変化があれば、その都度話し合いをして、新たな計画を作成している。	
			(外部評価) 担当制を敷かず全職員で介護計画作成やモニタリングに携わることで、多角的視点で見た気づきを大切にしている。利用者や家族等からの意向を踏まえ、個別の暮らしをサポートする具体策を話し合うことができおり、理念につながる介護計画を作成することができている。また、介護計画を要約し日々詳細に実施記録を残し、根拠あるモニタリングへとつなげることができている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録に水分、食事、排泄など身体状況、日々の暮らしの状況、気づいた点など記録に残したり、申し送りをして情報を共有している。重要なことはラインを引くなどして介護計画の見直しに活かしている。また、本人が言った事はそのまま記録している。職員がどのような対応をしたか記録し、見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 通院や送迎など必要な支援には柔軟に対応し、支援している。特に体調面での受診には柔軟に対応している。入居者が買い物に行きたいとの要望が出た場合などはできる限り対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の方に声をかけ、何かあったときは協力が得られるよう働きかけている。消防、警察とも意見交換の機会を設けている。域包括支援センターの職員包括西地区の施設とも情報を共有し、協働している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 受診や通院は本人、家族の希望に応じて支援している。かかりつけ医との情報交換を密にし、共有できるよう支援している。	
			(外部評価) ほとんどの利用者が母体医療機関をかかりつけ医としており、法人代表者である医師が日々頻繁に訪問することで利用者との馴染みの人間関係が構築できている。また、専門医等本人の希望する医療機関への受診も家族等の協力を得ながら、必要に応じ同行等支援ができている。各ユニットに1名以上の看護師がおり、日々の健康管理や緊急時の医療連携がスムーズであり、利用者や家族等の健康に関する不安の軽減に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 各ユニットに1名以上看護職員がおり、利用者の健康管理や状態の変化に応じた支援ができるようにしている。医療機関との連携があり、緊急時の対応がすぐにとれる。夜間の緊急時の対応もできるようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) サマリーに詳しく状況を記入し、情報交換をしている。医師、ナース、ご家族より状態を聞いたり入院先を訪問したり、ご家族と医師の説明を聞いたりし、相談しながら、早期退院に向けて協働している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や終末期のケアに関する指針を定めており、入居時に説明している。本人や家族の希望を聞き、どこまで対応できるか、職員も一緒に話し合い、Dr、Ns、介護福祉士、家族共々支援に取り組んでいる。家族の希望を入れながら、ターミナルプランをたてている。	
			(外部評価) 重度化した場合における対応に係る指針を持ち、「最後まで、人間らしく、その人らしく、安らかに」という基本理念でターミナルケアマニュアルを整備している。入居開始前には事業所としてできること、できないことについて利用者や家族等に説明し、終末期のあり方について意向を伺うほか、状態に応じてその都度利用者や家族等から意向を伺い、説明や意向確認書を取付け、思いを共有している。実施後にはそれぞれの思い等について振り返りの機会を持ち、次の機会へとつなげている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当、急変時の対応について研修を行って、実践力が身につくよう努力している。マニュアルを作成し、各ユニットに置き、いつでも見れるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力も得ながら、定期的に避難訓練をしている。地域の方にも訓練に参加していただき、協力が得られる体制を築いている。  (外部評価) 年2回の防災訓練をはじめ、水害や地震等を想定した訓練や自主点検を意欲的に行っている。避難経路の掲示や実際に地域住民には事業所内部を理解してもらい、緊急連絡網や訓練計画等にも具体的な役割を担うなど協力を得ている。火元となる設備の改修等、環境整備に努めることで火害を事業所から出さないように心がけている。また、重度利用者や車椅子利用者も多いため、安全に避難する方法についてよく検討されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 穏やかな言葉かけや対応ができるよう、気を配っている。一人一人思っておられることが違うため、プライバシーを損なわないよう、対応にも気をつけている。接遇・プライバシーの研修も行っている。  (外部評価) 利用者個々の人格や習慣を尊重し、敬意をはらった対応が心がけられている。慣れが出やすい言葉かけも日常の関係を大切にしながらも適切な対応ができるよう注意がされており、必要に応じた指導や接遇研修ができています。利用者付近での申送りの場合、イニシャルで呼ぶ配慮がされている。入浴や排泄等特に羞恥心への配慮が必要な場面にはパーテーションの活用がされ、人として不快だと感じたり、傷つけてしまうことがないよう対応することに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人に聞きながら、自己決定できるよう支援している。意思表示の難しい利用者は、表情やしぐさから読み取るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) できるだけ一人ひとりのペースに合わせ、生活を大切にし、業務中心で職員主導の生活にならないようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 出張美容師さんに来て貰い、本人の希望を聞きながら散髪をしている。髪を染めたりパーマをかける方もいる。行きつけの美容室に行かれている方もいる。洋服は自分で選んでもらいその人らしいおしゃれができるよう支援している。また、みんなでお化粧をしておしゃれを楽しむこともある。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人一人の好みを考えて、必要時には、嫌いなものと取り除いて、他の物を用意している。入居者のできる力を活かし、職員と一緒に準備したり、片付けをしている。職員と一緒に楽しく食事ができるようにしている。  (外部評価) 朝食と主食、汁物等は事業所で調理のほか、おやつ作りや敷地内で採れた季節の果物、地域住民から差し入れられた野菜を使つての1品等、食事が楽しみにつながる工夫をしている。主菜等は利用者の希望を取り入れながら、隣接する同法人デイサービスの共通献立を利用している。ユニット毎に利用者の状態に合わせた食事形態や食器、配席の工夫を行っている。また、朝の時間は利用者が個々に食事をとり、昼夜は一緒に食べるといったように集団生活の中にも個人のペースに配慮した対応が見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の状況を把握し、1日の水分、栄養バランス、習慣に応じた支援をしている。嚥下状態を把握し、それに応じた食事形態にしている。必要に応じて高カロリーゼリーなど、食べていただいている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアが行えるよう支援している。一人ひとりの状態に応じた見守りや介助をしている。ポリデントを使用して清潔保持にも努めている。自分で出来ないかたは、時間を決めて職員が口腔ケアを行っている。定期的に歯科衛生士さんの口腔ケア・リハビリを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>一人一人にあった自立支援をしている。また、排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っていて、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。個々の状態に応じて、パッド、紙パンツ、布パンツなどで対応している。夜間なかなかトイレまで行けない方は居室にポータブルトイレを置き自分で排泄していた。</p> <p>(外部評価)</p> <p>日常生活での食事や水分量等の健康管理と、医療面での管理状態に応じて取り入れており、排泄パターンを掴み、利用者個々のリズムや状態に応じトイレでの自然排泄を大切にした支援を行っている。また、重度化によりおむつの常時利用も増えているので、利用者の状態に合わせた適切な用品の選択等が行えるよう努めている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>水分をきちんと摂って貰ったり、マッサージを行ったりしている。必要に応じ、排便チェック表を作成し、パターンの把握に努めている。牛乳や飲むヨーグルトで、便秘しないように気をつけている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>一人ひとりの希望に合わせて入浴して貰っている。チェック表を作り、入浴の状況を把握している。一人ひとりのニーズに合わせて、健康状態も考えながら入浴して貰っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ユニット毎に個別浴槽があり、週2～3回の入浴ができるようにしている。法人の他事業所の大浴場を利用し雰囲気の違いを楽しんだり、入浴剤を使用したりしながら気持ちよく過ごしてもらう工夫もしている。また、入浴が苦手な利用者には、無理強いすることなく誘い方等職員同士で連携を図りながら、利用者が入浴できやすいよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>その日の体調や本人の希望に応じて昼寝をして貰っている。日中はよく活動して、夜間は安眠できるよう支援している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルを作成し、一人ひとりが服薬している薬について理解するよう努めている。薬の変更時は、職員に申し送りを行っている。薬は職員が管理し、一人ひとりの内服を確認している。間違いがないように声を掛けあいながら介助している。また、医師と相談し服薬の調整をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 踊り、歌や園芸などを楽しみに行ったり、イベントにも参加して貰うよう支援している。庭へ出たりして気分転換を図っている。また、体調をみながら、花見や遠足、いちご狩り、家族と一緒に外食など外出支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 全体的な外出や季節ごとの外出は計画を立てて行っているが、車椅子の利用者が多い為、一人ひとりの希望を聞いての対応が難しくなっている。ご家族の協力も得ながら、季節を感じることができるよう支援している。時間をみて、日光浴をしたり、近所の花を見に行ったりしている。 (外部評価) 事業所の敷地は広く、休憩できる庵や池を設け、果樹や季節の花々が訪れる人を楽しませてくれており、利用者や地域住民の交流の場ともなっている。年間行事計画を作成し、季節感が味わえるような外出支援も検討されている。また利用者の希望や状態に応じ、買い物や散歩等が日常的に行えるよう支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望や能力に応じて、所持できる利用者には少額所持していただき、自分で使えるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があるときは、電話も手紙もいつでもやり取りできるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) トイレ、浴室などを清潔に保ち、臭いにも気をつけ、不快のないようにしている。料理の臭いや音などで生活感のある環境を作り、花などを飾るなどして居心地良く過ごせるよう支援している。体温調節の困難な方には、冷暖房、除湿、換気、掛け物の調整等を行っている。</p> <p>(外部評価) 開設14年を迎えており、老朽化した設備にはきちんとメンテナンスが行われ、利用者が安心して生活できるよう努めている。ユニット毎にそれぞれ家具等の配置は違っており、利用者の好みに応じた配置がされている。また、温湿度や明かり等への配慮、死角となる部分にはミラーを活用するなどの工夫がみられ、利用者は安心して過ごすことができている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ホールにソファを置いており、思い思いに過ごせるよう工夫している。テーブル等の配置も工夫している。ホール、居室を思い思いに使って過ごされている。一人が良い時はそっとしてあげるなど気づかっている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 本人の使い慣れたものを持ってきていただき、居心地良く過ごせるよう配慮している。壁に写真や絵を貼ったりして工夫している。また、寝たきりのかたには、淋しくないよう居室でTVをつけたり、音楽をかけたりしている。</p> <p>(外部評価) 床にカーペットを敷き、和式布団スタイルで過ごす利用者もおり、これまでの生活習慣が継続できるよう支援されている。また、それぞれに思い思いの馴染みのものを持ち込んでもらい、居心地良く暮らせる工夫もできている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) バリアフリーで手すりがついており、できるだけ自立した生活が送れるような環境づくりをしている。トイレなど共有部分には混乱しないよう紙に書いて貼っていたり、居室の入り口に本人の写真や名前を貼ったりしている。</p>	